

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

連帯社会インスティテュートは、2015年度より開始されたにも関わらず、地域と連携した研究フィールドでのリサーチワークや、各分野の高度な専門知識をもつ外部講師による研修など、理念・目的に掲げる、政策構想力と実践力を兼ね備えた「連帯社会」を築く人材育成に向けたプログラムが、着実に実施できている点は、高く評価できる。

また、こうしたプログラムのもと、インスティテュートの募集人員に対し院生の確保ができていますので、社会において、インスティテュートの意義が十分に理解されているといえよう。

今年度、こうしたプログラムの実施を通して初めての学位が授与される予定であるが、インスティテュート初の学位論文の質が、理念・目的に応える水準となることを期待する。同時に、プログラム全体の検証も行われ、より高い水準のプログラムへと改善されていくことを望む。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

今年度、初めて修士号を授与することとなった。少人数のため修士論文執筆にあたって各教授は懇切丁寧な個人指導を行うことができ、学生全員が修士号にふさわしい論文を執筆できた。極めて優秀な論文を執筆した学生も各プログラムに1人合計3人いた。3つのプログラムを横断的に学習させ、それを前提に専門性を高めるという教育方針が一定程度の成果を収めた結果だと思われる。これに満足せず、さらに授業、論文指導の質を高めていきたい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートは、2015年度より設置されたにも関わらず、「公共の新たな担い手となる人材の育成」という明確なアドミッション・ポリシーのもとで、NP0・社会的企業研究、協同組合研究、労働組合研究の三つのプログラムを柱としたきめ細やかな教育を行っている。

2016年度の大学評価では、初めての学位論文の質が理念・目的に応えた水準になることに加え、プログラム全体が検証され、より高い水準へと改善されることへの期待が述べられていた。連帯社会インスティテュートでは、2016年度に13名全員が丁寧な個人指導を経て修士の学位を授与され、しかも極めて優秀な論文を執筆した学生が各プログラムに1名、計3名いたことは高く評価できる。さらにシラバスや修士論文作成スケジュールについては、専任教授の間でシラバスチェックを行い、学生に対する授業改善アンケートに基づいて、改善への様々な取り組みが行われており、高く評価できる。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

・正式な形では立ち上げていない。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートは2015年に開始され、また専任教員3名、専担教員4名という構成であるため、内部質保証委員会は立ち上げられていない。しかし、授業改善のための詳細なアンケート調査を行い、授業担当者にその結果を伝

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

える等、運営委員会が実質的に質保証活動を行っている。

2 教育課程・教育内容

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	
【学位授与方針】 学問的知見を踏まえつつプロフェッショナルとして公益に資する政策の形成・実践を担う人材を育成するために具体的な運動論や手法に関する科目を配置し、他方で実際に社会の最先端で活動する専門家と知的に交流する機会を作る。 修士課程に2年以上在学し、基礎科目10単位を全員が修得し、NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムのプログラムごとに設定されている必修科目10単位、選択必修科目4あるいは6単位を含む36単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した者に学位を授与する。誰もが多様な働き方を通じて社会参加し自己実現可能な民主的会社とするためにNPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働者福祉事業団体、労働組合などに求められる社会的役割を認識し、解決すべき課題を発見し、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・発信する能力、それらを実現・解決するための人的・組織的ネットワークを形成する技能、そしてその基盤となる高い志を育成することを目指す。	
①研究科(専攻)等として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
【教育課程の編成・実施方針】 NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムの3つのプログラムごとに、全員が受講する基礎科目、プログラムごとに設定される必修科目、選択必修科目を定め、選択科目としては各プログラムにふさわしい科目を提示し、幅広い専門科目から受講科目を選択する際の一助としている。	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。 ・シラバス	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 本インスティテュートは理論と実践の組み合わせることによって教育成果を上げることをねらっているが、さらに効果をあげるために、前年度に引き続き、NPO法人を訪問した。今年度は障がい者の自立支援を行っているNPO法人「むく」を訪れ、具体的な活動内容、組織などについて学習した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・該当なし(博士後期課程の設置なし)	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

該当なし（博士後期課程の設置なし）	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・該当なし	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 NPO、協同組合、労働組合の基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて NPO、協同組合、労働組合を理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供している。それに加えて理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 連帯社会、サードセクターについての海外の著名な研究者が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生全員に参加を求めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・新入生のガイダンスの際に修士論文を目標にした履修モデルをプログラムごとに指導している。 ・1 年次、2 年次にそれぞれ年 2 回実施する「研究報告」において、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況などを報告させており、その際に、指導教授以外の教授もアドバイスを学生に与えている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。 ・新入生のガイダンスの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という 2 種類の資料を配布し、説明している。	
【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
（～400 字程度まで）※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 1 年次におけるゼミ、2 年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。その上、1 年次、2 年次にそれぞれ「研究報告」を年 2 回一春と秋一開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1 年生、2 年生ともに、また春秋ともに、いずれも 3 時間以上にわたる発表である。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・3 人の専任教授がシラバスチェックを行っている。 ・記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も参考にしている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2016 年度授業改善のためのアンケート」	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も表明されており、それを参考にして検証している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2016年度授業改善のためのアンケート」 	
<p>2.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。 	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」 	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。ちなみに2016年度は大学院生13名全員に修士号を授与した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行った。 ・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。 ・各教授ともこの基準を念頭に研究報告、論文指導、論文審査を行った。 	
<p>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。上記の取り組みはいずれも2016年度に行われたものである。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>【修士】 (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。</p> <p>連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。各教授はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し3人の教授が共同で責任を持つ体制を整えている。</p>	
<p>【博士】 (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。</p> <p>該当せず</p>	
<p>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。上記の取り組みはいずれも2016年度に行われたものである。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同組合プログラム、労働組合プログラムの学生は所属組織が判明しているので、特段把握する必要はない。NPOプログラムの学生は所属組織が判明している学生と、これからNPOを実践しようと考えている学生の2種類があり、前者につ 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>いては特段把握する必要はないが、後者については卒業後の進路は把握していない。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。</p>	<p>S A <input checked="" type="checkbox"/> B</p>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>特に系統だった評価をしているわけではない。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入</p> <p>基礎科目、必修科目、選択必修科目については記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2016 年度授業改善のためのアンケート」</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>基礎科目、必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は運営委員会で提示し授業改善に向けての資料として有効活用している。また運営委員会メンバー以外の教員 (非常勤講師も含む) に対しては、全体の調査結果 (選択式の設問) と担当科目の調査結果をフィードバックしている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2016 年度授業改善のためのアンケート」</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※ (1) および (2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<p>・教育の質を向上させていく努力は常に必要だと考えている。したがって、専任教員の率直な意見交換、授業改善アンケートの活用、講義を依頼する講師の選任、オムニバス授業「連帯社会とサードセクター」の内容、NPO 法人の課外学習などの面で、今まで以上の努力をしていく必要があると感じている。</p>

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

<p>連帯社会インスティテュートの学位授与方針は、明確に定められている。教育課程の編成・実施方針も、三つのプログラムごとに適切に設定されている。また、新入生ガイダンスにおいて、「修士論文提出までのスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」に関する書類が配布され、詳細に説明されている。</p>

②教育課程・教育内容に関すること (2.3)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

連帯社会インスティテュートは、三つのプログラムのコースワークが適切に設定され、理論と実践を組み合わせるといふリサーチワークの観点から、昨年に引き続き NPO 法人（2016 年度は障がい者自立支援、NPO 法人「むく」）を訪れ、活動内容・組織などの学習を行っていることは評価できる。

連帯社会インスティテュートは、アドミッション・ポリシーとして「公共の新たな担い手の育成」という方針が明確であり、カリキュラム編成からも、専門分野の高度化に対応し、グローバルの観点からの教育・研究が行われていることが伺える。また、グローバル化推進の取り組みとして、これまでに連帯社会、サードセクターについての海外の著名な研究者 3 名が特別講演を行っている。今後も引き続き、地域的視点とグローバルな視点が組み合わせられ、一層充実した教育が行われることを期待したい。

③教育方法に関すること (2.4)

連帯社会インスティテュートでは、新入生向けのガイダンスにおいて、「修士論文提出までのタイムスケジュール」と「修士論文の提出、審査体制、審査基準」が配布され、履修モデルとともに、学位論文作成へ向けての説明が為されている。また、1、2 年次におけるそれぞれ 2 回の「研究報告」などを通じて、学生の研究指導、学位論文指導は適切に行われている。

シラバスやそれに沿った授業の検証は専任教員間で行われている。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

学位論文審査基準は、学生の入学時に周知されており、学位授与状況も適切に把握されている。

3 人の専任教員の共同責任体制のもと、きめ細やかな個人指導によって、学位水準は保たれていると判断される。

学位授与方針に明示した学生の学習成果は、把握・評価されていない。基礎科目、必修科目、選択必修科目については、記述式と選択式の設問をあわせた独自の授業評価アンケートを実施して、運営委員会で検討されるとともに、授業担当教員に周知されるなど、組織的に利用されている。

3 学生の受け入れ

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本インスティテュートが目指す人材の育成には幅広い視野と経験が欠かせない。NPO、協同組合、労働組合の活動に携わっている実践家を受け入れることを最優先に考え、加えて連帯社会、サードセクターに関心のある社会人を受け入れることも行っている。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S A B

(～200 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

協同組合プログラム、労働組合プログラムについては日本労働文化財団が指定する団体に推薦を依頼している。団体推薦で受験する学生と社会人一般応募枠で受験する学生の中から研究計画書および論文（またはそれに代わる文章）の審査、面接試験結果を踏まえて、入学者を選抜している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

3.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

協同組合プログラム、労働組合プログラムを選択する団体推薦の学生については定員を確保する努力をしており、定員をおおむね充足できている。ただ NPO プログラム、社会人一般入試については年によってバラツキが大きく、悩みの種で

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ある。科目履修制度を活用して、本インスティテュートに関心を持ってもらうよう工夫をしているが、それ以外にもなんらかの対策を講じる必要があると考えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

3.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学選抜の結果について検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

運営委員会、面接試験時などでの議論を通じて検証を行い、その結果を次年度に活かすよう努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・NPOプログラムの受験者を一定程度確保するための広報活動等を充実することが必要ではないかと考えている。

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートの学生の受け入れ方針は適切に設定され、社会人枠についても一般枠についても、受け入れ方針に基づく入学選抜の制度や体制が適切に整備されている。協同組合プログラムと労働組合プログラムについては、団体推薦の活用により定員をおおむね充足できているが、NPOプログラムについては年によって応募者数にバラツキがあることが懸念事項として挙げられている。この点について、具体的な広報方策の検討が望まれる。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・連帯社会インスティテュート運営委員会

運営委員長 中村圭介、副委員長 栗本昭、委員 柏木宏。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科(専攻)等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムの3つのプログラムを備え、学生にはプログラム横断的な学習をすることを求めるとともに、プログラムごとの専門性を高めることも求めている。そうすることによって連帯社会を担う人材を育成するよう努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

2016年度研究指導教員数一覧（専任）（2016年5月1日現在）

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数
修士	3	3

4.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）等内のFD活動は適切に行われていますか。 S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・運営委員会で以下のような取り組みを行っている。

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、各科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016年度授業改善のためのアンケート

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは、三つのプログラムそれぞれに1名の専任教員が配され、これら3名の専任教員から構成される運営委員会が、組織的な教育の実施の責任を担っている。FD活動については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケートが行われており、評価できる。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。 S A B

(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

2015年度、2016年度には中国人留学生1人が在学しており日本人学生、指導教授が総力をあげてサポートをしたが、2017年度は留学生はいない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

2016年度は中国人留学生1名が在学しており、日本人学生と指導教授によるサポートが行われた。2017年度は留学生は在学していないが、今後留学生が入学することを想定し、修学支援の制度化が図られることを期待したい。

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		インスティテュートの学生数が少ないため、学生評価者が特定できる可能性があるため、アンケートに向かない科目があるが、それを補う形の評価方法を試みている。
年度末報告	執行部による点検・評価	連帯社会研究交流センターの協力を得て、必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の両方を含む授業アンケート調査を実施し、その全結果を各教員に配布した。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		インスティテュートが発足間もないので、方針面があるが、早急に評価と成果を対応させ、確定していく必要性に迫られている。
年度末報告	執行部による点検・評価	NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムを横断的に学び、「連帯社会とサードセクター」を受講することによって視野を広げ、自らの選んだプログラムで専門性を高めるとの方針で教育を進めてきた。この教育目標はこの2年間で相応の成果を得たと確信している。必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の両方を含む授業アンケート調査を実施し、その結果を授業および授業方法に反映するよう努めた。修士論文に関しては修士論文のタイムスケジュールおよび審査体制と審査基準を学生に示し、年に2回、修士論文の執筆状況を報告する研究報告を1年次、2年次に開催し修士論文執筆に向け学生を指導してきた。少人数であることもあり懇切丁寧な個別指導を行うことができ、全員に修士号を授与することができた。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

インスティテュート独自の記述式と選択式を組み合わせた独自の授業評価アンケートを作成・実施し、またきめ細やかな修士論文作成の指導を行っている点は評価できる。

【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートは、設立間もないにもかかわらず、明確な三つのポリシーをもち、3名の専任教員と学部横断的な協力により、特色ある三つのプログラムを有している。それぞれのプログラムで、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを設定し、きめ細かい修士論文指導が行われていることは、高く評価できる。今後はインスティテュートとしての定着期に入ると考えられるので、グローバル化に伴うカリキュラムの一層の充実、内部質保証への対応や外国人学生への門戸の拡大などが検討されることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。